



Shigeyuki Mitamura

横浜市出身。1973年(株)帝国ホテル入社。レストラン部、経理部、外商部、宿泊部を経て、83年・87年夏、上高地フロントオフィス出向。国賓の来日に合わせ三度迎賓館事務所勤務。87年帝国ホテル労働組合接客分会議長。89年Hotel Nikko Chicago・U・S・A出向。宿泊部フロント課長(参事)。2000年Hotel Imperial BALI、INDONESIA出向、総支配人に就任。03年帰国してホテル事業統括部部长。05年宿泊部長(理事)。09年事業開発部理事。10年7月メルキュールホテル横須賀総支配人。16年8月より現職。

100年目に向けた 「第三代 日本青年館ホテル」の 開業に向けたチャレンジ。 ハードは5スターとは言えない。 しかし、ヒューマンで5スターを目指す!

日本青年館ホテル 総支配人 三田村 成之 氏

日本青年館は1925年、全国の青年団が明治神宮造影に労力奉仕したことを記念して、青年団活動や社会教育の拠点として建てられたホテル・ホールを併せ持つ施設です。今年夏に開業する新たな日本青年館は1979年に開業した二代目の後を継ぐ三代目となり、また、2025年には誕生100周年という大切な節目を迎えるという点でも、三代目日本青年館は大変重要な役割を担うこととなると言えます。

日本青年館ホテルはその中の宿泊施設として国内さまざまなお客さまを迎えてきましたが、新しく生まれ変わる日本青年館ホテルは時代の変化を受け、これまでの日本青年館とは姿形はまったく異なるホテルとして誕生します。

一方、ホテルとしてのスタイルは大きく変化しますが、青少年の育成を目的とした公益事業の点など、これまで大切にしてきた点に変わりはありません。

私の役割は、生まれ変わるホテルにおいて、大切なものを残しながら、同時に新しいエッセンスも加えていくことです。“公益”と“利益”、“日本における歴史”と“国際化”、“団体のお客さま”と“個人のお客さま”、それぞれのバランスを大切にしながら、2020年の東京五輪、2025年の100周年を迎えるのに恥ずかしくないホテルをつくりあげていきます。

近年はホテルの投資としての側面が強くなり、企業によっては目先の利益を求め過ぎた結果、スタッフが疲弊をしたり、ホテルが本来果たすべき役割を見失ったりしているのではないかと感じる場合があります。しかし、私たち日本青年館ホテルは、そういった盲目的な利益優先主義ではなく、公益事業という点、

ホテルが果たすべき社会、地域に貢献するという点も大切にしながら、長くお客さまに、地域に愛されるホテルを目指します。

そのためには、ホテルのハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェア、それぞれが大切です。例えば、ハード面ではホテルとしてもっとも大切な商品である客室の徹底管理を、ソフト面では多様化するお客さまのリクエストに応えられる仕組みと、経営的にはレベニューマネジメントを柱とした適切な収益の管理などに取り組んでいきます。

そして、最も大切だと考えているのはヒューマンウェアを通じた“内”と“外”のセールス活動ですね。“外”へのセールスとしては、システムだけに頼らず、積極的に外に出て、さまざまなパートナー企業やコミュニティとの関係づくりも目的としたセールス体制を大切にします。“内”へのセールスとは、お越しいただいたお客さまにリピーターとなっただけのためのセールス活動です。

目指しているのは、お客さまから好かれ、可愛がられるホテルスタッフがそろっていることですね。それこそ、さまざまな歴史や物語を背景に持つ日本青年館ホテルの目指す姿だと思っています。

ホテルのハードは決して5スターではありません。そして、ホテルの特性からも5スターになってはいけないと思っています。しかし、ソフト、特にヒューマンの面では5スターです、と言えるようなホテルを目指し、そこに共感をしていただけの方に集まっていただき、新たな物語を重ねていくホテルづくりにチャレンジをしていきたいと考えています。